

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう



山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた

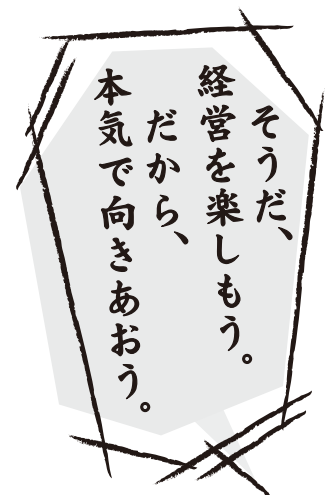


幹部社員研修 第1講

手段・手法のまえに“根っこ”でつながろう

第19期 経営指針をつくる会に参加して Part2

第12回 経営研究集会のご案内



2014年度スローガン

手段・手法のまえに“根っこ”でつながろう

社員共育委員会主催の幹部社員研修第1講が、10月23日(木)に山形ビッグウイングにて開催され、14社35名が出席しました。昨年から経営課題解決の実践型研修となり、経営理念があること、人材育成を積極的に推進したい企業、事前レポート提出、企業変革支援プログラムステップ1を利用と、参加条件のハードルが高くなっていますが、毎年参加している幹部社員の成長を実感できる研修となりました。

はじめに阿部委員長より、幹部社員の役割をどのように認識していますかと問いかけ、「経営感覚を持って担当部署でリーダーシップを発揮することです。それぞれ課題を持って参加されていると思います。第1講でこの課題をどう解決していくのか、1カ月後の第2講で経営者の意識を持って参加していただきたい」と述べました。



風通しのよい会社とは、

3つのズレを解消することから



第1講は、講師に東洋産業(株) 代表取締役 玄地 学氏(宮城同友会 副代表理事)を迎え、「風通しの良い社風づくりと幹部社員の役割」と題して、企業変革支援プログラムを活用し、徹底した現状認識、経営課題を明確にし、経営指針の全社

の実践の取り組みをお話しました。

社員との間には、「情報の格差」「解釈力の差」「価値観の差」があることを認識し、このズレを丁寧に解消していくことが何より大切と語ります。

現状認識の一致

現状認識では、そのツールとして中小企業家しんぶん、各同友会の機関誌、中同協議案書、DORなどを紹介。自社に関わる業界を含め収集した情報を、全社員と正確に客観的に捉え徹底的に分析をしました。

東洋産業では、徹底した現状認識と経営課題を明確にすることにより、卸売業からメーカーへと「第2創業」への取り組みが始まっています。

問題と課題を見極める力

支援プログラムの取り組みから「売上が足りない」「人が集まらない」「経営指針が浸透しない」「新入社員がすぐ辞める」など多くの課題が出されるが、これって本当に課題なのかと問いかけ、真の経営課題を見極める力の重要性を語りました。その経営課題を解決するためにどんな方策を打ち立てていくのかを考え、共通の認識として経営戦略につなげています。

最後に、①将来のあるべき姿を経営者が示し、そこに行くための具体的方針・戦略を示すのが幹部社員。②全社員と共に現状認識をする。③経営指針書の3つの実践(更新・発表会・プログラムの実施)の重要性をまとめました。

“根っこ”でつながる

玄地社長は補足報告で、現状認識の原点は、仕事の中で起きる問題を社内の教材として学びあうことが基本。日頃からあらゆる情報を共有し、ミス、クレーム、成果などなぜ起こり、どう対応していくかをみんなで考える習慣を身に付けることが大切。

特に、労使間の現状認識の一致は、社員がどんなことで悩んでいるのか、一番困っていることを掴み、正面から向き合うこととし、「手法や手段で共有するよりも、社員と根っこで繋がるのが大事」と信頼関係づくりを強調し、参加者の共感をよびました。

第19期 経営指針をつくる会に参加して Part 2

先月に引き続き、「第19期経営指針をつくる会」を修了された皆さんの感想を紹介致します。

これからに向う覚悟と自信が芽生えた

(株)オネテック 常務取締役 斎藤 源



今年8月、「経営指針をつくる会」を無事終了することができました。まず終了まで支えて下さった委員会の皆様、事務局の皆様、そして修了生の皆様、同期の皆様に感謝申し上げます。

私は後継者として事業を引継ぐべく5年前に山形に戻り、がむしゃらに会社運営に取り組んできました。しかし、判断の軸となる理念や方針が明確化されていないことが、場当たりの判断や行動につながっているという問題意識がありました。「経営指針をつくる会」をご紹介いただき、経営理念・方針について腰を据えて考え、明確化すべく会に参加しました。

参加してまず感じたことは、伝えることの難しさ・言葉

の難しさです。そして「伝える」指針書を作るために、一つ一つの内容について深く考え抜く必要性を感じました。指針書作りの内容について深く考え、悩むほどに「いつか」ではなく、「この機会に」「8月までに」これをやり遂げたいと強く思うようになりました。そして、それをやり遂げた今、自分の中にこれからの経営に向かう覚悟と自信が芽生えたと思います。

また、指針作りの期間中は、指針セミナー以外でも講演会など様々な機会をご紹介いただき、経営指針作りに取り組んでいる期間だからこそ感じる気づきや学びを与えていただきました。

これからは、このかけがえのない半年間の苦悩を形にしていく、実行力が求められると思います。そのための一層の学びも必要であると改めて感じております。そして作りあげた経営指針書を実行させ、レベルアップさせ、社内に浸透させていく努力を重ねてまいります。

お客様、地域、社員の為に前進

(有)そば処庄司屋 代表取締役 庄司信彦



同友会入会以来、経営指針セミナーの存在はあちらこちらで耳にし、お誘いを受けることもありました。正直なところ、噂を聞くとさっぱり受講する気にならず、「まあ、うちはうちだし」といった具合で避けていました。しかし、私の将来にとっておそら

く、凄く重要な経営者の勉強であることは、心の中で分かっていたし、結局逃げている自分にも気付いていました。

そんな中、この1年がとてもしばい1年になることが見えて来た正月になぜか受講してみようという気持ちになり参加させていただきました。噂通り、通常の仕事の中ではあり得ないような厳しい言葉や質問が飛び交い、来るんじゃなかったと思った場面もありましたが、これは自

分の意識を改革し、社員との共通した道筋を明文化するため。色々な事を曖昧なまま、そしてそれを知りながら過ごしてきた毎日を変えるため。今までは弱みを見せたくないあまり、弱みを隠している自分がありましたし、それを隠す作業に多くの労力を費やしてきました。しかし今回しっかり向き合えた事は大きな財産。そして、助言者の方々も厳しい事を言いながら恐らく自分に言い聞かせ、学び続けている事を気付かされました。

今回受講したつくる会の深さを身に沁みて味わい、真剣に、全て自分の事として取り組む姿勢に変わってからは、後継者の私に足りない部分を大いに考えましたし、助言を頂きながら、細かい数字までを明文化したかけがえのない経験として、これからの私の土台になることは間違いないでしょう。

しかし、問題はこれから。色々と学んだこの経験を生かすも殺すもこれからの肝心ですから、今回学んだ事を社員とともに経営に生かし、お客様の為、地域の為、そして社員の為に前進していきます。

社員と共に成長する会社をめざして

(株)板垣水道 代表取締役 板垣一紀



私が「経営指針をつくる会」の受講を思い立ったのは今年が創業から60年を迎え、経営に真正面から取り組むのは今だと思ったからです。また、庄内支部の12月例会に参加した時に勢いで参加すると言ったことも今になって考えれば後押しになったのかもと思います。

受講するにあたって経験者の方々や同友会の方々から大変だと言われましたが、同友会に入会しながらも中々例会に参加していなかった自分には想像が出来ませんでした。今、身を以て体験させて頂きました。第1講の時は9人中唯一一人一睡も出来ず、自分の力なさを痛感させられました。第2講の会場へ向かう車の中では、何度となく引き返そうかと思いました。「経営指針をつくる会」を通して多くの気づきと、自分の苦手な部分に取り組める貴重

な機会を頂きました。

助言者の皆さんから頂く言葉に、言葉で取り繕うとしても言葉が繋がらず、自分の中に無いものを出そうとしても意味を持たない事や、今まで会社が何をして来たのか、何を求められているのか、何が出来るのかを気付かされました。苦手になっていた、社員とのコミュニケーションもコミュニケーションを取らなければ、会社が今よりも前に進まないこと、思いを同じくする為には、文字に表し共有する事、この2つは貴重な経験をさせて頂きました。作る過程を通して、どれだけ自分勝手に、その時、その時の気分で経営をしてきたのかを社員の言葉のひと一言で気付かされました。

いま、本当の意味の指針づくりのスタートラインに立って社員と共に成長する会社、そして経営者を目指して、全力で取り組んで参ります。

最期に、叱咤激励を頂きました委員長を始め委員会の皆様、そして貴重な時間を頂きました助言者の皆様へ厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

社員の力を一つにして地域になくしてはならない会社へ

(株)大商金山牧場 代表取締役 小野木重弥



半年前に商工会議所青年部の仲間である高橋さんが同友会の事務局として来社された時、「経営指針をつくる会」の申込書を置いていかれたのが事の始まり。一応は経営計画を作成し、金融機関の皆様をお迎えして経営計画発表会を開催し、朝礼に於いて企業理念、行

動指針の唱和と経営計画手帳を輪読し、会社の方針を伝えておりました。毎日15分の環境整備活動を通して、形が揃えば後は自然に規律ある組織になると信じてやってきました。

少しずつ変化を感じていたのもつかの間、社会の構造が一気にデフレからインフレに変わり仕入れや経費は軒並み上がりましたが、値上げ交渉はなかなか受け入れてもらえず苦しい状況に陥りました。その上、豚の流行性下痢症が国内で発生し今後の見通しが利かない中、現状を打開するには何でもやってみようと、申込書に記入した

しだいです。

当初、普通のセミナーと同じように講師のお話を聞く座学が中心と思っていましたので、気楽な気持ちで参加しましたが初回の1時間でものの見事に大変なセミナーを受講してしまったと後悔しましたが後の祭りです。助言者の皆様に囲まれて忌憚りの無い意見と指摘を受け、大いに戸惑い、苛立ちを覚えました。社長の立場になると周りに注意する人がいなくなるので、人の意見に耳を傾けることの重要性を再確認出来ました。

また、労使見解を初めて読んでみて経営者の責任の重さを痛感させられました。そして何より我われ受講者のために手弁当で参加し助言して下さいました先輩経営者の皆様、本当に有難うございました。心より感謝申し上げます。

今現在、37期の経営計画発表会に向けて、幹部社員を中心に準備を進めているところです。また、全事業部でISO9001取得に向けてプロジェクトを立ち上げました。コーポレートメッセージ「私たちは 元氣のみなもとをつくっています」を合言葉に社員の力を一つにして地域にとってかけがえの無い会社を目指します。

地域・仲間・社員と共に中小企業の発展をめざそう

日時 2014年**11月18日**(火) 午後1時30分開会

会場 **ホテルメトロポリタン山形** 山形市香澄町1-1-1 TEL023-628-1111

参加費 第1部～第2部:**2,000円** 第3部(懇親会):**5,000円**

ごあいさつ



いよいよ第12回経営研究集会開催まで、残り3週間でさきりました！
実行委員会では、当日の成功をめざして着々と準備をすすめているところです。

今回の基調講演は、北海道同友会 会員の本田興業(株) 代表取締役 本田哲氏を迎え、『魅力ある地域と企業づくり』についてお話をさせていただきます。

本田氏の本業は、アルミサッシなどの住宅設備業。2004年に東京から北海道にもどったとき、公共事業が激減し、売上が24%ダウン、創業以来の赤字に転落し危機的状況に陥っていました。そこで、企業体質を変えるために、社員の原価意識の徹底と工事業からサービス業へと業態変革に取り組み、一期で黒字に転換！その原点が、16年間働いた日産時代に学んだ“行動原則”で

す。社員の持っている力を引き出し、元請の受注を増やし、現在、利益率が10年前より15%アップしているといえます。

本田氏の行動力、挑戦力が、「将来の子どもたちのために地域を元気にしたい」という仲間を呼び寄せ、魅力ある地域づくりへと活動が広がり、人口16,000人のニセコエリア 倶知安町に年間33万人の観光客が訪れる国際リゾート地へと変化していきました。

地域の人口が減少しマーケットが縮小する中、選ばれる企業、持続可能な地域になるために、本田氏の実践に学びましょう。

また、今回の講演は会員の方はもとより、社員の方、ゲストの方にも喜んでいただける内容となっておりますので、ぜひお誘いあわせの上ご来場ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

基調講演

(13:30～18:50)

演題:『魅力ある地域と企業づくり』ニセコを世界ブランドに変えた男

講師:本田興業(株) 代表取締役 本田 哲氏 「倶知安町観光協会会長」

分科会・グループ討論

～今年も分科会が熱く面白い！～ (15:35～18:50)

第1分科会 「経営指針」

テーマ:「本当の意味で社員と思いを共有するとは」～経営指針書は誰のもの～

報告者:株式会社菓子工房COCOイズミヤ 庄司 薫氏

経営指針を作成し、結果はついてくると一人で走っていた自分に気づき、社員と一緒に考えることから始め、社内が変わってきた取り組みを語ります。

第2分科会 「社員共育」

テーマ:「任せる」「認める」人材育成「幸せづくりの出来る会社を目指して」

報告者:株式会社笹木製作所 笹木浩二氏

笹木浩二社長が職人から経営者へと変わり、社員を認め、任せられるようになるまでの会社の仕組みづくりを熱く語ります。

第3分科会 「地域活性」

テーマ:「中小企業振興条例で地域内循環を高める」

報告者:本田興業(株) 代表取締役 本田 哲氏

第3分科会(地域活性)は本田社長が再登場します。若者が担う地域の未来のために、「中小企業振興条例」どんな効力を発揮しているのか。行政とのかかわり、元気な地域づくりの取り組みをお話します。

懇親会

(19:05～20:30)

第7回理事会報告

◆日時:2014年10月8日(水)16:00~18:00 ◆会場:同友会事務局 ◆議長:齋藤専務理事
◆出席:阿部(秀)、阿部(和)、安藤、伊藤(誠)、越前屋、奥山、川合、後藤、西塔、齋藤、佐藤(一)、佐藤(弘)、佐藤(松)、白鳥、菅原、玉津、水沢、若木(敬称略) 事務局:伊藤、矢作、高橋(21名)

■代表理事挨拶 西塔代表理事

経営者は自分ひとりの身体ではないことを自覚して健康に気をつけてほしい。先日、大分で行われた中同協主催の役員研修会に参加してきた。鋤柄会長の講義を受け、同友会3つの目的の大切さを実感してきた。この理事会で同友会3つの目的を丁寧に勉強していきたい。

■報告事項

●中同協関連

- 1) 中同協役員研修会参加報告(10/2~3 大分) (西塔代表理事)
3つの目的の読み合わせを行い、「自主」の捉え方として、自分たちが創っていく活動であることを強調。「強い同友会づくり」の資料をもとに、新年度の活動方針原案を作成していくと報告。
- 2) 北海道・東北ブロック事務局長会議報告(9/24、25秋田) (伊藤事務局長)
経営環境について触れ、各地同友会の企業づくり・同友会づくりの共通課題と新たな活動に学んできたことを報告。
- 3) 新潟同友会村上支部ときらやか銀行との「マルプロ」業務提携開始(9/2)の報告。(伊藤事務局長)
- 4) 消費税増税・税制・外形標準課税等に関するアンケートの結果報告(伊藤事務局長)
10/6に中同協でプレスリリースした内容と山形同友会の集計も合わせて紹介し、
①消費税率10%になれば、8%実施のときより価格転嫁に苦戦。
②10%「中止」・「延期」求める声 6割超 4ヶ月間で急増
③8%実施で景況感は激落。「7-9月期に回復」の予想に反し、さらに悪化へ。
④3%増税分以上の原材料価格・経費の上昇 6割の企業が直面。価格転嫁厳しい。
⑤外形標準課税の適用拡大 76%が反対 5点の特徴を説明した。

●行政・他団体関連

- 5) 金融庁業務説明及び意見交換会の報告(10/2) (越前屋理事)
8団体、山形県、山形市から10名、金融庁、東北財務局から4名出席。実のある意見交換会で、金融庁の新しい考え方、今年2月から運用されている「経営者保証に関するガイドライン」などを詳しく知る機会となった。
- 6) 日本政策金融公庫 支店長来局の件と今後の対応について (越前屋理事)
10/1、支店長が来局され、今後の業務連携等については地域活性化委員会で対応していきたいと報告。

●山形同友会関連

- 7) 各委員会・部会より
・経営指針委員会(菅原理事):8月に第19期が修了。助言者の参加を増やすこと、経営指針の実践への課題がだされた。
・社員共育委員会(阿部理事):企業変革支援プログラムを活用し、各企業の経営課題を基にグループ討論を実施、委員会が学びの場、情報提供の場となっている。
・共同求人委員会(玉津理事):第1回委員会を開催。会員企業の採用実態アンケート調査を10月中旬に実施する。Jobway登録20社を目標としたい。
・女性部会(白鳥理事):9/25に第3回例会を開催し、第19期経営指針作りの報告に学びがあった。10/28「山形・福島同友会女性経営者交流会」(10

月例会)を開催する。

- ・食・農部会(阿部秀顕理事):2015年新春交流会を担当し、10月から実行委員会をスタートさせる。

●財務関連

- 8) 2014年度9月月次決算と未収金状況の報告 (伊藤事務局長)
10/7に上半期の監査があり、「経理規定」の作成と前回理事会の決定事項の進捗状況の確認が必要であると指摘されたいことを報告。

■承認事項(入・退会承認) 2名入会2名退会(10/8現在418名)

■討議事項

議題1: 会員増強(組織強化)の取り組みについて (安藤理事)

- 1) 組織委員会の増強・新支部づくりの活動費として、補正予算を組むことが決定した。
- 2) 新庄最上支部準備会の取り組みの報告 (水沢理事)
・担当プロジェクトの会議を3回開催。新庄市役所、商工会議所、新庄市内の金融機関を訪問。
・既存リスト約100名の方に入会を呼びかける。(10/9、10訪問活動を実施)
・第1回準備会(仮称)11/7の成功に向けて、毎週スケジュールを立て取り組む。
・支部立ち上げには同友会全員で取り組む姿勢が必要であり、各委員会・支部の支援、第1回準備会に理事の参加を確認した。
- 3) 増強デー(10/15)、第2回増強月間(11月)の取り組みについて
①県全体で、11月末で+35名で453名にすることを決定した。
②各支部の取り組みについて
・山形:企業訪問と具体的行動に移す。目標6名
・寒河江:例会ワンゲストの取り組み。目標4名
・さくらんぼ:日々増強で取り組みをしている。目標3名 58名にする。
・置賜:11月末まで3名を増やす。
・庄内:10月例会にゲスト参加を呼びかけをする。目標10名

議題2: 第12回経営研究集会(11/18)の件 (阿部理事)

各団体、金融機関、行政を訪問し準備を進めている。10/8現在の各支部の参加状況が報告され、目標達成の依頼と集約日(第1次:10/28 第2次:11/4 第3次:11/11)を確認した。なお、次第、役割分担等は10/16の実行委員会で決める。

グループ長スキルアップ勉強会(10/30)の参加依頼があった。

議題3: 「外形標準課税適用拡大」反対への取り組みについて (西塔代表理事)

愛知、福岡同友会等の会員をはじめ社員が署名活動していることが紹介された。山形同友会として、1000名目標で取り組むことを決定した。

■理事経営体験報告 報告:越前屋理事

■確認事項

- 1) 第4回入会生かす経営全国交流会(11/20~21 長野)の参加目標:5名
- 2) 第8回理事会の開催日程について
●日時:11月12日(水)午後4時~
●会場:同友会事務局

■閉会挨拶 安藤理事

今回は大変盛りあがった理事会となり、越前屋さんの報告を聞き、これこそが同友会と感じた。厳しい時ほど相談できる同友会にしていこう。

新会員紹介

◎大江 晴久氏

(株)大江車体特装 専務取締役
業種 特装車製造、トラック幌・テント・内張シート製造
山形支部

◎西塚 真氏

トータルリペア復元屋 代表
業種 車両及び住宅補修
さくらんぼ支部

支部・会員名・企業名・役職変更

- (有)ライフバンク保険やまがた(山形支部) 代表取締役副社長 伊藤尚彦氏→
専務取締役 大沼貴暢氏に変更
- (有)長門屋(山形支部) 取締役 笹林陽子氏→ 代表取締役に変更
- (株)高橋型精(山形支部) 取締役次長 高橋広真氏→ 専務取締役に変更
- (有)桂林(山形支部) 常務 蜂谷修一氏→ 専務に変更
- (株)アイティエー・ラボ(置賜支部) 代表取締役 今泉 孝氏→
(株)サードウェーブソリューションズ 代表取締役社長に変更

同友やまがた11月号(2014年11月1日発行/通巻260号)

From Editor

★淡路阪神大震災、地下鉄サリン事件が起きた1995年に、縁あって同友会に入局し11月6日で20年目を迎えます。入局後まもなく両親が続けて入院、介護が必要となり、毎週日曜日は実家へと車を走らせる生活が約6年続きました。入局当初は一人きりで、半年後の定時総会の準備に無我夢中の毎日。緊張の糸が張り詰めた状態でスタートしました。その緊張感は今でも続いています。★局員も増え、支部、委員会の数も増え活動領域が広がっていきました。今までに知りえない“中小企業”の世界にどっぷりと身を置いてきたわけですが、同友会理念から始まり常にそこを追い求めていく、時代や経営環境が多様に変化しても、その原点は普遍的で、★順調なことばかりでなく誰もが経験

するように、悩み、迷い、失敗など沢山の波風体験をすることに。入局間もない頃、現在代表理事を務める西塔氏の「いつまで被害者意識で働くのか」の一言で甘さを痛感し、壁を乗り越える力になりました。全国の事務局の目標となった北海道の大久保さんや全国の先人たちの出合いがまた財産になりました。★2005年5月、最後となった秋田同友会設立総会の時、当時会長の赤石さんの一言が忘れられませんが。「あなたのその静かな積極性で…」止めど無く涙が溢れてきました。3年間通った庄内にやっと5番目の支部ができたのはその年の11月です。来年、庄内支部10周年、さくらんぼ支部20周年、そして山形同友会30周年を迎えます。新たな物語の準備をしていきます。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp